

ピースウィンズ・ショッピングから

エコスタイルマグでくつろぎのひとときを
お買い得なバラエティセット!

残暑はまだまだ厳しいですが、暦の上では秋の訪れを感じる季節になりました。秋の到来に先がけて、今回は秋の休日を満喫していただくためのセットをご用意しました♪

今回のセット内容は、陶器を再利用した「リサイクル陶土」を使ったオリジナルマグ、華やかな香りが拡がるライチホワイト/カモミールシトラスティー、おなじみ東ティモールドリップバッグコーヒー、そして紅茶やコーヒーのお供にぴったりな甘さ控えめのかりんとう。どれもピースウィンズ・ショップおすすめの商品です。

この度はショートマグセット：通常価格1830円→1480円、トルマグセット：通常価格2040円→1680円となっており、とてもお買い得です。（限定40セットのみの販売となります。）

さらに今回、上記のセットをご購入された方には先着で、10名様にナチュラルハーブを使って染め上げたハンドタオル、20名様に地球柄のコルクコースターをお付けします！またご注文頂いた方全員に東ティモールの子どもたちのポストカードをプレゼント致します。ギフト包装、エコスタイルマグのみの追加注文も承っております。エコスタイルマグセットをこの機会にぜひお求めいただき、初秋の心地よいティータイムをお楽しみください♪

ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>
またはTEL03-6438-9403、FAX03-5786-7782まで。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの国際支援活動に活用されています。

支援地レポート

ハイチ

テントとガレキ撤去用のツールキットの配布と並行して取り組んできた3校における学校再開支援が、7月20日に無事終了しました。臨時簡易教室の設置、学校再開に必要な家具や文具の提供などを通じて支援してきた3校はいずれも授業を再開しており、そのうちの一校であるミシェル・ド・モンテニユ学校のフィルモン校長も、生徒全員が学校に戻ってこられた、と笑顔です。



スーダン



南部ボーア郡の小学校でトイレ建設を行っています。マメール小学校のトイレは、完成までドアの取付けと屋根の敷設を残すのみです。パリアック小学校のトイレも、壁の塗装と手洗い場の建設を残すのみとなりました。学校のすぐ横で建設を進めていることもあり、休み時間に様子を見くる子どもたちが完成を待ち遠しそうに工事現場を眺めています。

東ティモール

今年も6月からコーヒーの収穫・精製作業が始まりました。今年からは、最高品質を保ったまま輸出量を増やすべく、すでに高い技術を持っているレテフォホ郡の生産者が、リキサ県リキサ郡のコーヒ生産者への技術指導を行い、新たな生産地へ活動を広げました。



ピースウィンズ・ニュース



再び故郷での生活を、 —スリランカでの帰還民支援—

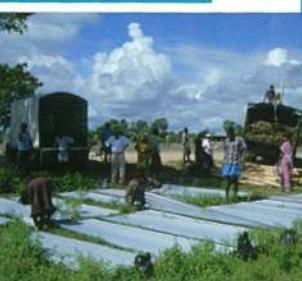
6月12日、スリランカ東部トリンコマレ県。晴れわたる青空の下、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)スタッフの立会いのもと、一棟の仮設住居が完成した。「今日ほどうれしい日はないわ」と、満面の笑顔を見せたのは、キンニヤ郡マジードウナガル村に住むワスーンベヴィーさん。完成した自分の仮設住居を前にして、建設を手伝ってくれた人たちに感謝の言葉を伝えつづけた。

PWJは、スリランカ東部トリンコマレ県の5郡で、内戦後に故郷へ帰還する人びとに対して275棟の仮設住居を提供してきた。彼女も受益者の一人であったが、内戦により夫を失い、住宅資材を受け取っても、建設を担う男手がないという境遇であった。そうした状況を察した同じ村の男性たちが集まり、自分たちの仮設住居の建設よりも優先して、彼女の住居建設を請け負ってくれたのだった。

昨年、20年以上にわたる内戦が終り、故郷の地へ戻ってきた彼らの目に最初に飛び込んできた光景は、懐かしい水田風景ではなく、破壊され、変わり果ててしまった「我が家」だったという。密林が広がりジャングル化する土地もあれば、いまだ軍の管理下におかれ、立ち入りを規制されている土地もある。こうした条件下、親類や知人の家に身を寄せるしかない人びと。厳しい状況の中でも生まれ育った地で暮らしたいという彼らの願いは変わらない。人びとの未来に希望をつなぐため、PWJの仮設住居支援は、東部から北部へと事業地を拡大していく。

ワスーンベヴィーさんと、建設を手伝ってくれた人びと

仮設住居支援の風景



仮設住居の資材を配布



建設のデモンストレーション

スリランカ支援のはじまり

スリランカでは長年、多数派シンハラ人（主に仏教徒）の政府に対し、少数派タミル人（主にヒンドゥー教徒）の反政府組織「タミル・イーラム解放のトラ」（LTTE）が武装闘争を繰り広げてきましたが、2009年5月に内戦が終結しました。その後、主な戦場となった北部州では国内避難民が約28万人以上という国連難民高等弁務官事務所の発表を受け、PWJは避難民キャンプにおいて状況調査を実施しました。そこで水や食糧支援の必要性が高いことを確認し、避難民キャンプでの支援実施を決定しました。

IDPキャンプでの食糧支援

国内避難民の支援のため、PWJは2009年10月1日より東部トリンコマレのブルムダイ避難民キャンプにて食糧配布を開始しました。キャンプでは、米や小麦粉などの主食は国連世界食糧計画（WFP）が提供していましたが、副食の野菜や魚、スリランカ料理に欠かせないスパイスや豆などの補助食糧を支援する団体が必要とされていたため、PWJがこれらを調達し最大で3,709人に対し配布を行いました。

また、ブルムダイ避難民キャンプの周辺はもともと水源が十分でない上に、支援を始めた年には少雨のため干上がってしまったところもあり、キャンプ内では水不足の問題もありました。そこで、PWJは現地政府と協力し、給水車2台による飲料水と生活用水の給水支援を行い、最大でキャンプ住民6,817人に水を供給しました。

村に生きる スリランカ発

クッチャベリ郡イラナイケルニ村に住むジェヤラニさんは、内戦で夫を失いましたが、3人の子供と、内戦で片足を失った長男夫婦を養うため、毎日懸命に働く肝っ玉母ちゃんです。



仮設住宅は、家族6人で生活するにはかなり手狭ですが、それを苦にする様子はなく、「故郷でまた家族みんなで暮らしが私にとっての一番の幸せなの。」と慈愛に満ちた瞳で家族一人ひとりを見回してうなずいている姿は、私たちPWJスタッフの心に深い印象を残しました。

ムトゥール郡東ムトゥール村に住むバルバティビライさんは、独立して家族のある子供たちによる同居の誘いを断つてまで、亡くなった夫と暮らした故郷での生活を切望していました。モニタリングで訪問した際に、「あなた方は私に生きる希望を与えてくれたわ！神様だわ！！」と手を合わせるので、PWJスタッフは少々困惑気味でしたが、「亡くなっ

た主人との思い出が詰まったこの場所に戻ってくることが、私の唯一の生きる望みだったの」と涙ながらに仮設住宅支援への感謝を述べていました。

バルバティビライさん（左）と現地スタッフ



帰還民への支援

2009年12月にPWJが支援活動を行っていた避難民キャンプが閉鎖され、国内避難民がそれぞれの故郷へ帰還し始めたことを受け、PWJは支援活動を国内避難民支援から帰還民支援へと移行しました。

避難民キャンプを出て帰還民となった人びとの中には、地雷などの問題で故郷の地にはまだ帰ることができない人や、故郷には帰還できても住んでいた家が破壊されて住む場所がない人など、再定住するために様々な問題を抱えている人が多くいました。PWJはそのような帰還民に対して、2010年1月から3月まで補助食糧を配布するとともに、テンポラリーシェルターとよばれる仮設住居の資材配布および建設の指導を行いました。補助食糧配布事業では2,753世帯を対象に、仮設住居支援事業では275世帯を対象にそれぞれ支援を行い、後者は2010年6月末をもって終了しました。

2010年7月からは、故郷へ帰還した人びとが再びその故郷で生活していくことができるよう、農業や漁業、仕立屋や自転車屋などの小商売を始めるための道具セットを配布する生計支援事業を東部トリンコマレで行うとともに、新たに北部ワニヤに事務所を開設し、北部に帰還した人びとへの仮設住居支援を行っています。

※PWJのスリランカ支援事業は、支援者のみなさまからの会費・寄付のほか、ジャパン・プラットフォームなどの協力も得て進めています。

ほんとうに必要な支援を届けたい

スリランカ駐在・齊藤大作

PWJは、今年3月末まで帰還民を対象にした補助食糧配布支援を実施しました。避難民キャンプでのこれまでの食糧支援の経験と現地スタッフの意見を踏まえ、各地方行政長官（GA）の要請を基に準備した補助食糧リストから、スリランカの家庭料理に欠かせないチリパウダー、ココナッツミルクパウダー、ひよこ豆、日本の煮干しによく似た干魚、唐辛子、魚の缶詰など13種を選定しました。

こうして始まった補助食糧配布は、帰還直後で仕事もなく、思うように食糧を買うことができなかった受益者から、「これで子供たちに本当のカレーを作てあげられるわ」と感謝の声で迎えられ、週末も、各食材の袋詰めなど配布準備を行ってきた私たちスタッフの疲れを吹き飛ばしてくれました。

また、その後多くの受益者から、サマー・ポーシャ＊や米粉といったスリランカの定番料理の材料が買えなくて困っているという話を聞き、配布食糧にこの2品を追加することとなりました。

連日の作業で疲労困憊のスタッフたちの身体を心配する私をよそに、「ぜひ、この2品も配布食糧に加えてほしい。彼らの助けになるならどんな苦労も厭わないから。」

という彼らの真摯な態度に心打たれる一幕もありました。

＊サマー・ポーシャ…数種類の穀物の粉末。栄養価が非常に高く、子どもや妊婦の栄養補助食品としても使用。



東京事務所から

チャリティーイベント「ピースウォーターナイト」を7月15日に表参道で開催し、多くの方にご参加いただきました。

前半は、スーダン事業現地代表の佐久間隆による活動報告。2006年の事業開始以来、PWJは131本の井戸を建設するなど、主に水・衛生事業を行っており、報告会では現地の写真

佐久間職員による報告会
を用いて支援内容を伝えました。事業の状況などについて質疑も多く交わされました。

また後半には、PWJ音楽親善大使であるシンガーソングライター廻田彩夏さんのライブを行いました。音楽を通じて世界中に笑顔の連鎖の種をまき、ひとつひとつを繋いでいきたい。そんな彼女のハートフルな歌声が会場に響き渡りました。

PWJ音楽親善大使の廻田彩夏さん



尾道事務所から

大地震に襲われたハイチの復興を応援するチャリティコンサート（PWJ後援）が5月に全国10カ所で開かれました。現地の支援でもお世話になった「ハイチ文化交流の会」が企画。PWJ尾道事務所が共催した尾道公演は、被災地の写真のスライド上映やパネル展示もあり、立ち見が出るほど盛況でした。ハイチの「至宝」と呼ばれる太鼓奏者アゾールさん、歌手のサラさんによる情熱的な演奏とダンスに、多くの人が魅了され、終了後の懇親会では両国の言葉や文化をめぐる話にも花が咲きました。全国ツアーの収益から25万円がPWJのハイチ支援に寄付されました。



メディア掲載報告



「SPUR（シュプール）」7月号の特集ページで、モデル松島花さんの「マイ可愛い」グッズとして、PWJのタンブラーとピースコーヒーがとりあげられました。



光文書院「社会科資料集 6年」の「国際協力と日本の役割」で、NGOによる海外支援の例として、PWJの活動が掲載されました。



日本テレビの報道番組「action！」によるイベントが東京・汐留で開催され、「若者よ、世界をめざせ」というテーマで、PWJ代表理事大西健丞がトークライブに出演。NEWS ZEROキャスターの村尾氏、鈴江氏と対談を行いました。